

下野市高齢者保健福祉計画策定委員会 議事録

審議会等名	令和4年度 第2回 下野市高齢者保健福祉計画策定委員会
日時	令和5年3月24（金） 午後1時15分 ～ 2時30分
会場	下野市役所3階 303会議室
出席者	佐藤慎、増山有一、前原多鶴子、木村祐子（代理）、安生祐介、須藤知道、吉田優、角田充仙、中根智子、川俣一由、手塚譽、林和美、鈴木祐孝、鈴木景子、岸野みどり（欠席：坂本栄一）
事務局側	健康福祉部長：福田充男、高齢福祉課長：川嶋恵美子、高齢福祉グループ：青木一成、基幹型地域包括支援センター：早乙女美奈子、介護保険グループ：大山良雄、主幹：吉川健次、主査：中西つぐみ、主査：舘野詩織、地域包括支援センター（いしばし）：大地由美子、センター長（こくぶんじ）：高津戸美枝、センター長（みなみかわち）：山下昌美
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
傍聴者	0人
報道機関	0人
議事録作成年月日	令和5年3月27日

1 開会	事務局より、開会宣言
2 あいさつ	<p>（福田健康福祉部長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナについて 今月16日から警戒度はレベル1へ、5月8日以降5類感染症に引き下げられる。ワクチン接種は自己負担なしの接種を継続するが、市民の皆さん基本的な感染対策の励行の呼びかけと共に、ワクチン体制を確保できるよう医師会等と協力を得ながら進めていきたい。 ・ 第9期計画策定について 2040年には本市の高齢化率が約33%となり、医療・介護・福祉サービスの更なる需要の高まりが想定され、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの更なる構築を進めている。 今後はこの取り組みに加え、分野を問わず丸ごと対応するための様々な取り組みを横断的に進めていく「地域共生社会の実現」を見据えて、誰もが安心して健やかに暮らせるまちづくりを推進するためにも本計画を策定してま

	いりたいと考えているため、引き続き委員の協力を賜りたい。
3 自己紹介	名簿順に各委員及び事務局より自己紹介が行われた。
4 委員長、副委員長選出	互選により、林委員が委員長として選任された。 林委員長より、角田委員が副委員長として選任された。
5 議事	<p>(1) 第1回書面開催の結果、第1回及び第2回の議事録署名人の指名について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回書面開催の議事録は、佐藤委員と増山委員が指名された。 ・第2回議事録は、前原委員と木村委員（代理）が指名された。 ・資料1について事務局より説明がなされ、承認された。 <p>(2) 令和4年の事業計画の「取組と目標」の評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前配布資料及び資料2により、各委員からの意見助言について、下記のとおり事務局より説明がなされた。

委員名	ページ No.	施策の内容	意見助言内容
前原多鶴子	91	生活支援体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援型ホームヘルプ事業の利用人数 ・日常生活用具給付事業の利用人数 <p>申請がほとんどない事業とのことですが、対象者の洗い出しはどのようにされているのでしょうか？</p> <p>対象者がいるとしたらアプローチ方法の検討が必要かと思われます。</p> <p>全くいないのであれば、事業継続の必要性について検討を要するかと思います。申請に結びつかない分析が必要では。</p>
回答			<p>○対象者</p> <p>生活支援型ホームヘルプ事業：「介護保険法による要介護・要支援の認定を受けていないもの」「介護予防・日常生活支援総合事業の対象者とならないもの」</p> <p>日常生活用具給付事業：「生活保護法による被保護世帯のもの」「非課税世帯のもの」</p> <p>○サービスを利用する人は5年以上いませんが、セーフティネットとしての「いざというときを支える事業（制度）」として、救済策を張りリスクを分かち合うことが安全安心な在宅福祉サービスの仕組みとして廃止していない。</p>

前原委員より質問)

過去5年間申請が0件だが、周知されていないと申請ができない。周知方法について知りたい。

回答)

在宅福祉サービスについては、ホームページに掲載しているが、高齢者のため、電子媒体より紙媒体での情報提供が必要と認識している。そのため、広報誌に高齢福祉サービスの一覧を見開き1ページに掲載した。65歳介護保険証取得時にサービス案内のチラシを同封し周知啓発を図っている。

林委員長より)

包括支援センターにおいても、制度の周知が図れているか？低所得者生活保護対象者の方の相談と入ったとしてもなかなか利用まで結びつかない、それ以前の問題を抱えているケースも多いとは考えられるが。

包括支援センター回答)

ケアマネなどと情報共有をしながら支援をしている。

吉田優	82	就業機会の確保	広報活動で色々な取り組みをされている様ですが、会員登録の際、どのような啓発活動がきっかけとなったか、アンケートをとっているかどうかの確認により効果的な広報活動ができると良い
回答	令和4年度.入会のきっかけ(アンケート集計48件) 1.公共機関(ハローワーク_1件、市役所_11件) 2.会員・知人の紹介_17件 3.マスコミ(広報誌,ポスター,新聞折込みチラシ)_4件 4.広報しもつけ_4件 5.その他(ポスティング,ホームページ,社会福祉協議会,募集ステッカー)_11件		
吉田優	119	地域支援体制の推進	徘徊高齢者あんしんサービスは、GPSとQRコードの2つのサービスがあるが、どちらも問い合わせがあるのか、一方に偏っているのか。人数を2つに分けた方が良いのかどうか。

<p>回答</p>	<p>①位置検索サービス_G P S機器 “ココセコム” 令和4年度.利用者数_4名 問い合わせ件数_2件</p> <p>②身元確認サービス_QR (2次元)コード付きシール,アイロ ンプリント 令和4年度.利用者数_2名 問い合わせ件数_0件</p> <p>③それぞれのサービスの人数を分けて目標を決めるというわけ ではなく、一体として何人という目標として定めている。</p>		
<p>回答</p>	<p><u>林委員長より質問)</u></p> <p>①利用者は2つのサービスのうち、どちらかを選ぶのか？</p> <p>②今年度、実際に認知症で徘徊したケースのうち、このサービス を使用したことはあったのか？</p> <p><u>回答)</u></p> <p>①今のところは2つのサービスを掛け合わせての利用も可能であ るが、現在の利用者はゼロ。</p> <p>②今年度の使用はない。</p>		
<p>鈴木 祐孝</p>	<p>80</p>	<p>社会活動へ の参加推進</p>	<p>老人クラブの減少に歯止めがかからない。 根本的な改善案を提示しないといけない。 支援金や運営事務処理の一括請負等考える べき。</p>
<p>回答</p>	<p>○会員増強と担い手育成は老人クラブが直面する最重要課題である。 単位老人クラブで構成する市老人クラブ連合会（事務所_下野 市社会福祉協議会）では、会員増強への取り組みとして「老人ク ラブ会員募集チラシ」「いちごのストラップ」を作成し勧誘活動 時に活用。自治会の各班に「老人クラブ会員募集チラシ」を回覧 し、多くの方に老人クラブの存在を知っていただいた。活動の様 子は広報紙、YouTube 等でも随時お知らせしている。</p> <p>担い手育成として、コロナ禍でしばらく人数を集めての事業 （研修会）を行えずにいましたが、本年度はリーダーの育成を目 的とした研修会を実施し、クラブ活動の意義や有効性について理 解を深め、健康づくり・フレイル予防等、今後の取組みに推進を 図っている。</p> <p>○資金管理・運営事務処理について「一括請負い」 老人クラブが自主性を持って運営することが、大変意義のある 事であると考えています。 事務局（社協）としては、相談内容に応じて側面的な支援を行っ ており、複雑な問題については、社会福祉協議会と市高齢福祉課 が協議をしながら対応している。</p>		

鈴木祐孝	81	社会活動への参加推進	視野が狭すぎる！公民館の自主サークル等130近くもある。その他の団体を入れると当市には400近い団体が活動しているがご存じか？
回答	コロナ禍の中においては社会活動への参加推進も制限がありましたが、今後は生涯学習の分野のみならず、市の関係各課と連携して、多方面における活動への参加推進を行っている。		
鈴木祐孝	83	健康づくり推進	後期高齢者健康診断率が相変わらず停滞している。具合が悪くならないと出かけないガンコ者なので、常習者にはDMで驚かすくらいがいい。
回答	<p>R4.6からR4.12月末までの、後期高齢者健康診査の受診率は35.8%となっております。R5.1月末まで受診期間であったため最終受診率はまだ確定していない。</p> <p>後期高齢者の77.6%(R3)は、高血圧、糖尿病等の生活習慣病で医療機関を受診しているため、かかりつけ医で健診としてではなく、定期受診の中で血液検査などを行い、健康状態を確認していると思われる。</p> <p>また、R3から実施している高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施により、健診未受診者や医療機関未受診者（軽微な眼科や皮膚科受診などは除く）の健康状態不明者を抽出して、質問票の送付後に家庭訪問し、健康状態の確認を行い、健診受診勧奨やフレイル予防について個別支援を実施している。</p> <p>今後も一体的実施の中で、健診未受診者に対して受診勧奨を図っていく。</p>		
鈴木祐孝	86	介護予防の推移	しもつけ元気ハツラツ体操サポーターが246人もいるので、積極的な地域の見守り事業に組み入れられないか？
回答	<p>しもつけ元気はつらつ体操は、健康寿命を延伸し、高齢者が活力と生きがいのある高齢期を過ごすため、体操をとおして、自助・互助・共助の仕組みを整備推進することを目的としている。</p> <p>しもつけ元気はつらつ体操サポーター養成講座では、しもつけ元気はつらつ体操についての知識と技術を学び、地域ふれあいサロンの開設・運営の促進、体操のリードを行う人材の育成を行っている。</p> <p>現在しもつけ元気はつらつ体操を実施している地域ふれあいサロンは42箇所あり、サポーター養成講座の修了者が体操のリ</p>		

			<p>ードしてくださっている。参加者の様子を見守りながら体操を行っているので、地域ふれあいサロンの参加者について心配なことがあれば、サロン代表の方等から、地域包括支援センター・高齢福祉課等にご連絡をいただくような仕組みになっている。例えばもの忘れがあつて心配な方がいる・最近サロンに来なくなった方がいる・以前より身体の動きが悪くなった方がいるなど、地域包括支援センターに連絡があるので、その際には、地域包括支援センターが地域ふれあいサロンへ訪問しご本人の様子をうかがい、必要があれば家庭訪問等をして支援していく。</p>
鈴木祐孝	92	地域における支え合い体制づくりの促進	<p>第1層の協議体が第2層の協議体活動の補助支援をしているとは思えない現状である。両協議体が話し合う場を年に数回設けるべき。第2層は現場に打って出て活動することが山積している。</p>
回答	<p>第2層協議体で課題の解決が困難な場合には、第1層協議体に課題の提案を行い、解決方法を検討することが必要となります。よって、両協議体が話し合う場を設けることは有効と考えますので、今後検討していく。</p>		
鈴木祐孝	93	地域包括支援センター機能の強化	<p>総合相談が各事業所4,300件/年とは凄い数字で驚いている。広範囲の業務をよくこなしていただいているが大丈夫かしら。それでも知らない高齢者がいるから、顔写真入りのチラシを20,000枚くらい作るべし。</p>
回答	<p>地域包括支援センターの業務は、介護保険関連の相談対応に始まり、認知症等高齢者の相談対応や権利擁護事業、ケアマネジャーや医療機関等、関係機関のネットワーク構築など、役割は多岐に渡っています。地域のつながりが希薄化する社会環境の中、80・50問題等、複雑多様化するケースも増加しており、高齢者の総合相談窓口としての機能は非常に重要であり、高齢福祉課職員や関係機関と連携しながら対応している。地域包括支援センターの周知につきましては、若い世代にも地域包括支援センターの人材を知っていただくため、今年度新しいチラシを作成し市内の関係機関の窓口へ設置していただいたほか、各種会議等でも配布させていただいている。また、今年度社会福祉協議会でユーチューブが始まったので、そちらの方でも周知していきたい。今後ご本人を取り巻く若い世代の方にも知っていただき、認知症の疑い</p>		

	やその他で心配がある方について地域包括支援センターにつないでいただくため、SNS 等も利用しながら周知していく。		
鈴木祐孝	115	認知症に関する知識の普及・啓発	チームオレンジしもつけ登録者数は減っているが、まだ 88 人いる。ただ登録させていないで認知症者の家族を含めての具体的支援に狩り出すべきである。コロナに関係なく困っているはずである。
回答	<p>チームオレンジしもつけは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族の人に対して温かい目で見守ることができる支援者である。また、認知症になっても本人らしく、できる限り住み慣れたよい環境で安心した生活ができる地域づくりを目指すボランティアの集まりである。現在の活動内容は、認知症カフェの運営のほか、地域での見守り等一人ひとりが日常生活の中で、ご自身でできることを行っている。今後はチームオレンジしもつけと地域包括支援センター・高齢福祉課が連携して、新たなオレンジカフェを増やして行くなど、チームオレンジしもつけの活動の場を広げていくことについて検討していく。</p>		

林委員長より)

- ①令和 3・4 年度の介護サービス費の利用の傾向はどのようなものか？
- ②第 9 期における施設整備の予定は考えているのか？

回答)

- ①新型コロナウイルス感染症の影響によりサービスの利用を控える方が多く、給付費は予想より低い状況であった。
- ②短期的には施設整備は必要ではあるが、中長期的には施設利用者は減ることが予想されるため、慎重に検討し必要であれば小規模な施設整備にとどめることが賢明であると思われる。

(3) 今後のスケジュール (案) について

- ・資料 3 により説明された。
- ・11 月に実施した各種アンケート調査について、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、2,000 件中 1,387 件 (回収率 69.4%) であった。
- ・在宅介護実態調査は、前回 210 件今回 172 件であった。新型コロナによる自動更新により聞き取り調査ができなかったことが要因である。
- ・第 2 号被保険者意識調査は今回初めて実施し、1,000 件中 460 件 (回収率 46%) であった。
- ・令和 5 年度の策定委員会は 5 回を予定しているため、各開催日の日程を設

	定（決定）し、第1回の委員会において報告することとなった。
4 その他	なし
5 閉会	事務局より閉会宣言